



通信

HP 学校だより
R7.10.1
NO.20
文責 伊藤美佳



学びをつなぐ

授業時間に4年生の子どもたちが一輪車に砂をのせて運動場にまき、トンボで平らにして整備していました。「すもう大会が近いから、運動場の整備をしてくれているのかな」と思い、子どもたちに聞いてみると「理科の勉強で、雨が降って水がたまることを勉強したから、水たまりができないように砂で埋めてるんだよ」と教えてくれました。

子どもたちの学びは、テストで計れるものだけではありません。このように、学んだことを自分たちの生活に活かしていけることが、生きる力と言えます。

学びは、人と「人、もの、こと」とのかかわりから生まれることが多いと思います。その中でも、多くの人がいれば、いざごきは絶えません。「〇〇が△△してきた」「□□に××と言われた」など、絶え間ない訴えを子どもたちから聞かされます。しかし、問題が起きた時こそ、学びのチャンスです。どうすれば解決できるのかを考え、試し、うまくいかなかったらまた考える。トライ&エラーを繰り返し経験できる絶好のチャンスです。ともすると、よかれと思って大人がその成長の場を奪っていないでしょうか。運動場の水たまりを埋めようと悪戦苦闘している子どもたちの姿から、そんなことを思いました。



秋の風物詩 Part2

豊坂小学校の秋の風物詩 Part 2 として、5年生がすげ縄づくりに挑戦しました。(9月29日) 教えてくださる先生は、お米の先生お2人と6年生です。昨年もお米の先生が見本を見せてくださり、その後は6年生が5年生に教えながらすげ縄を作っていました。今年も同じように、すげ縄を200本以上作らなければなりません。初めてのすげ縄づくりに5年生は、四苦八苦の様子でしたが、6年生は上手なものです。お米の先生が「上手い」と太鼓判を押してくださった子もいました。5年生も、1本、2本と作っていくうちに、「何となくこんな感じかな」とこつをつかんだ子や、「4本目くらいからは、こつが分かってできるようになった」とうれしそうにすげ縄を見せてくれた子もいました。

すげ縄を「なう」という言葉も、この時初めて聞いた子もいることでしょう。縄をなうために「よる」ことです。こういった体験を通じて、子どもたちの言葉が増えることを期待します。

